

第5学年 社会科学学習指導案

1 単元「日本の工業の特色と働く人々のようす」

2 指導観

○（単元の分析）

大単元「3 工業の発達とわたしたちのくらし」では学習指導要領の内容（2）「我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。」を取り扱っている。アの「様々な工業製品が国民生活を支えていること」、イ「我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など」、ウの「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働き」を内容としている。

中単元「2 日本の工業の特色と働く人々のようす」は、地図帳や各種資料を活用して、工業生産や工業地域の分布、工業を支える貿易や運輸の働き、工業生産に従事している人々の現状について調べ、我が国の工業の特色や、工業生産が国民生活に支える重要な働きをしていることについて考える学習である。

児童の身の回りにある物のほとんどは工場で作られている。特に児童が興味をもって普段使っているテレビやゲームなども工業製品である。数ある産業の中でもとりわけ工業は児童の生活に密接に関わりがあることから、産業と国民生活とのつながりを、より高い興味をもって学習できると考える。

○（児童の実態）

本学級の児童は中単元「自動車工業のさかんな地域」において、自動車工場やそこで働いている人々、関連工場の様子、自動車工業の新しい動きの学習を意欲的に行い、工業生産に従事している人々の工夫や努力を理解し、工業製品に対する関心をもつことができている。また、これまでの学習で教科書や地図帳、資料集等の資料を活用し、社会的事象について考えることはできている。しかし、複数の資料を比較検討し1つの社会的事象を考えることは十分にはできていない。

本学級の児童は1学期いくつかの教科単元で、インターネットを活用した調べ学習を経験している。その際、キーワードを工夫して検索結果を絞り込んだり、検索エンジンのカテゴリーを参照して自分の調べたいことに合った情報をさがすことができるようになってきた。「自動車工業のさかんな地域」の学習でも、デジタルコンテンツを用いて自動車ができるまでの過程を調べる学習を行った。しかし、キーボード入力などの技術が十分でなく、調べ学習に時間がかかる児童も多い。また、国語や算数、音楽等において、教師が操作し児童への支援に情報機器を活用する学習も行っている。

○（指導に当たっての工夫や支援について）

本中単元では、学習の対象を自動車工業のから日本の工業全体に広げて、盛んな工業の種類、工業地域の分布、原料や製品の輸送など、日本の工業の特色をとらえさせるとともに、工場で働く人々は大小に関係なく、高い技術をもって、日本の工業を支えていることを理解させたい。

そこで指導にあたっては、日本の工業の特色を様々な観点から調べることができるように、教科書や資料集、インターネット等を活用し、資料を豊富に準備したい。インターネットを利用したの情報収集は非常に有効であるが、常に正確で新しい情報が入手できると思いがちが多い。また、入手できる量が多すぎて児童が必要な情報を吟味するのが難しいとも考えられる。何のために、どんな情報を、どこから収集するのか、さらに提供された情報は偏った内容でないか、正確さは信用できるか等、常にチェックするようにしたい。

日本の工業の特色を調べる学習では、単純に一つの資料から読みとるだけでなく、複数の資料を比較したり重ね合わせたりしながら類推し考えを深める必要がある。そこで、パソコンとプロジェクターを活用し、複数の資料を重ねて提示したり、強調したい部分を拡大したり、効果的な提示をしたい。

運輸や貿易などで日本と外国との関わりを調べる学習では、地図検索ソフトを活用しそれぞれの国の様子や日本との距離、位置関係等が視覚的にとらえられるようにしたい。

3 目標

- 様々な工業製品が暮らしを支えていることや、盛んな工業の種類、工業地域の分布、原料や製品の輸送など、日本の工業の特色をとらえるとともに、工業で働く人々は工場の大小に関係なく、高い技術をもって、日本の工業を支えていることを理解できるようにする。
- 日本の工業の特色や、工業を支える運輸や貿易の働きについて理解できるようにするとともに、働く人々について関心を持ち、意欲的に調べることができるようにする。
- 日本の工業の特色と働く人々の様子の学習を通して、社会事象を具体的に調べ、地図・統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現する力や、調べたことや表現したことに基づいて社会事象の意味について考える力を育てるようにする。

4 指導計画（全9時間）

配時	学習活動と内容	教師の支援と指導上の留意点
1	<p>工業製品を仲間分けしよう。</p> <p>○身の回りの工業製品を分類する。</p> <p>学習問題</p> <p>○ 日本の工業は、どんな特色があり、どんなところで、どんな工業製品が、さかんにつくられているのだろう。</p> <p>○ 働く人々はどんなくふうや努力をしているのだろう。</p> <p>○ 工業の生産とわたしたちの暮らしには、どんなつながりがあるのだろう。</p>	<p>○生活につなげて考えることができるように、いろいろな種類の工業製品が載っているチラシを準備させる。</p>
2 本時	<p>工業がさかんな地域と地形・交通・人口との関わりを調べよう。</p> <p>○工業の盛んな地域について調べる。</p> <p>○さかんになった理由を考える。</p>	<p>○教科書等の資料を活用して、工業の盛んな地域をとらえられるようにする。</p> <p>○児童の考えを予想し、それを確かめることができる資料を準備する。</p>
3	<p>工場地帯や工業地域の特色を調べよう。</p> <p>○工業地帯や地域の特色について調べる。</p>	<p>○各工業地帯・地域の生産額の内訳などの資料を準備する。</p>
4 5	<p>原料や工業製品はどのようにして運ばれているか調べよう。</p> <p>○工業製品をつくるために必要なものは何か考える。</p> <p>○原料やエネルギー資源はどのように運ばれてくるのか、工業製品がどのように送り出されているのかを考える。</p>	<p>○自動車工業で学習したことなどを想起させ、考えるように助言する。</p> <p>○加工貿易をおさえることにより、次時の問題へと発展させたい。</p>
6	<p>日本は、外国との貿易をどのようにおこなっているか調べよう。</p> <p>○日本の貿易の様子について調べる。</p> <p>○日本の貿易の問題点について考える。</p>	<p>○輸出品、輸入品、相手国、貿易額など観点をはっきりとさせて調べるように助言する。</p> <p>○貿易相手国側の立場からも考えることができるように発問する。</p>

7 8	工場の大きさによって、働き方にちがいはあるのか調べよう。	
	○大工場と中小工場の違いを調べる。 ○中小工場働く人々の工夫や努力について調べる。	○中小工場がもつ問題に気づくことができるような資料を準備する。 ○工場の大小に関係なく、物づくりにかける人々の熱意や努力が高い技術を生み、日本の工業を支えていることを理解させる。
9	工場や会社で働いている人たちは、どんなことを願っているのか考えよう。	
	○働く人たちや工場などでは、働きやすい条件をつくるために、どんな努力をしているのか調べる。 ○これまでの日本の工業についての学習をふり返り、地図などにまとめる。	○労働組合については、そのねらいや働き、組織率などの補助資料を用意する。 ○知識の確認だけでなく、自分の考えもまとめさせるようにする。

5 本時の目標

- 工業の盛んなところとその特色を調べ、それらが工業地帯や工業地域を形成し、主に太平洋ベルトに分布していることをとらえることができる。
- 工業が盛んな理由を考え、資料を関連づけて調べることができる。

6 本時指導の考え方

児童は前時に、身の回りの工業製品を調べ、自動車工業だけでなく様々な工業があることを学習する中で、日本の工業の特色・働く人々の様子・生活とのつながりの三つの視点から学習問題を作っている。本時は工業が盛んな地域にはどんなところがあるのかを調べ、その理由を考える学習である。

そこで導入では、工業のさかんな地域の画像をいくつか提示し、工場がさかんな場所がどんなところか予想させる。提示する場所はできるだけ離れていて、地形などの条件に共通性のある場所を選択する。提示する際は、デジタルコンテンツを活用し、それぞれの場所のアップ画像から、ルーズ画像へと提示範囲を広げていくことで、工業がさかんな地域が日本全国に広がっていることを意識させたい。今回使用するデジタルコンテンツは世界中の上空からの写真を様々な縮尺で表示できるコンテンツである。地形や土地の様子、広さや地図上での位置などをとらえさせるには最適であると考えられる。

そして、これらの離れた場所に共通の条件はないかという観点から工場が集まっている場所がどんなところか予想させ、めあてにつなげたい。

次に、資料を活用して工業の盛んな地域について調べさせる。その際、工業地帯や地域の位置と地形・交通・人口分布などを関連づけて調べ学習ができるような資料を準備する。それらの資料から読みとったことを白地図に書き込むことで、それぞれの地域の特色をまとめさせるとともに、工業のさかんな地域の共通性に気づかせていきたい。

調べて考えたことを交流する活動では、それぞれの考えを比較検討することができるように、地形や交通など観点ごとに区切って交流させるようにする。交流させる際には、それぞれの発表をより分かりやすく伝えるために、児童が書いたプリントをプロジェクターで拡大して提示したい。

工業が集まっている場所の特色をまとめる際には、プレゼンテーションソフトを活用し、工業のさかんな地域の地図に地形、交通、人口等の資料を重ねて提示し関連づけて考えさせることでさかんになった理由を確認させたい。今回使用するプレゼンテーションソフトは、資料をただ提示するだけでなく、拡大縮小したり、一部を切り取ったり隠したり、二つの物を重ねたり、様々な表示方法ができるという特長がある。

最後に、本時の学習を通して分かったこと思ったことをまとめさせる。その際、工業地帯、工業地域、太平洋ベルトなど、本時学習した用語を使用するように助言する。

7 展開

学習活動と内容	支援と指導上の留意点 ☆はICTを活用した支援
学習問題 工業がさかんなところはどんなところだろう。	
1 工場が盛んなところはどんなところかを予想し、話し合う。 ・平地 ・交通が便利 ・人口が多い	☆デジタルコンテンツを活用して、工業のさかんな地域の画像をいくつか提示し予想させる。
工業がさかんなところと地形・交通・人口との関わりを調べよう。	
2 工業のさかんな地域について、資料を活用して調べる。 ●工業がさかんな理由 ・地形 広い平地 ・交通 交通の便利がいい ・人口 人口が多い ●工業地帯と工業地域 ・四大工業地帯 京浜，中京，阪神，北九州 ・5つの工業地域 ↓ 太平洋ベルトに多い 3 工業の盛んな地域について、気づいたことを発表し、盛んになった理由について話し合う。	○白地図を活用したプリントを準備し、工業のさかんな地域を地図に表し、さかんな理由をまとめさせる。 ○工業が盛んな理由を確かめることができるような提示用の資料を準備する。 ☆児童が発表する際にはプロジェクターを活用し、児童が書いたプリントを拡大提示する。 ☆盛んになった理由を確認する際には、プレゼンテーションソフトを活用し、地図に工業のさかんな地域と地形・交通・人口の資料を重ねて提示する。
工業のさかんなところ ・広い平地がある ・交通が便利 ・人口が多い	
4 今日の学習で分かったことや考えたことを書く。	○工業地帯，工業地域，太平洋ベルトなどの言葉を使ってまとめるように助言する。

日本の工業の特色と働く人々のようす② 5の 名前

学習問題

工業がさかんな地域はどんなところだろう。

めあて

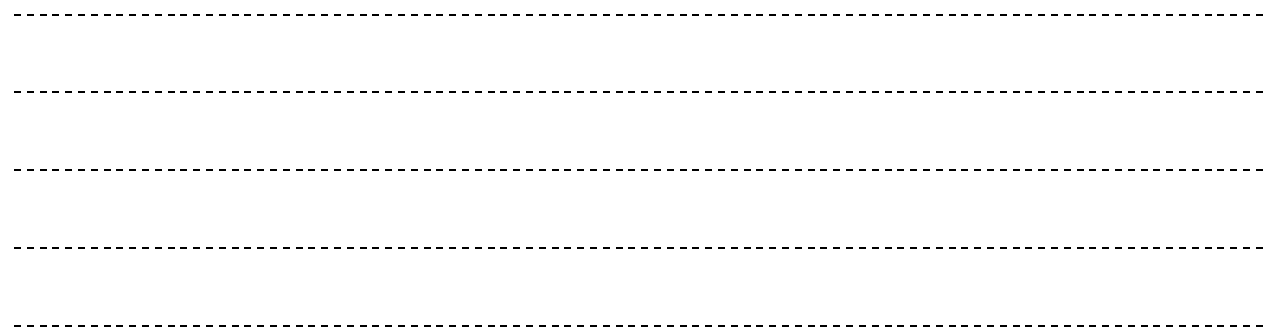


① 資料をから分かったこと・考えたことをうらの白地図に書きこみましょう。

まとめ



② 今日の学習で



☆アンケート パソコンやプロジェクター（前に写すやつ）を使った学習は、使わない学習にくらべて分かりやすいですか？ ○で囲んでください

- ①分かりにくい ②やや分かりにくい ③やや分かりやすい ④分かりやすい
どんなところが？

